

第5報

去年の12/4(月)、安平地区での**議会報告会での私の質問に対する梅森議員の答弁**が、大変問題のある発言で、説明すべき内容でした。しかし、その後、私からの梅森議員に対する「質問」には、「一切回答を寄越しません」でした。

1 番目の問題点

吉岡(質問): 議会には予算委員会、決算委員会、その他の委員会の会議がある。その中で、**決算委員会というのは、1年間の総括で、特に大事だと思うが、議員によって発言に大きな差がある。4年間、1度も質問しない人もいる。議員1人1人に、決算委員会をどのように認識しているか聞きたい。**

梅森議員の発言(答弁の一部)

③**決算については、私はその都度、その都度、予算計上されて認められて4月から積んで行くわけで、そういう流れの中で、「私はどちらかという、はっきりものを言うタイプなので、その都度その都度、行政の、役場の人に対しては意見を言っているつもりです。もしくは、確認をしているつもりです。そういうのが重要で、その場その場でやる活動というのが、議員の中で大変大事なことで、決して、④「決算委員会で発言していないから、その議員は一生懸命やってないんだ」という短絡的な表現は、間違っていると思っている。**

- 「予算委員会」の正式名称は、「予算審査特別委員会」
- 「決算委員会」の正式名称は、「決算審査特別委員会」と言う。

(1) 私の質問と梅森議員の発言を**読み比べてみて下さい。**

私の質問は、**議員1人1人は、決算委員会をどのように認識しているか**だったのです。が、**それには答えていない。**

梅森議員の発言の全体の中味は、

- ①「議会で発言していなくとも、議員活動を一生懸命やっている。」
- ②「発言しない人は一生懸命やっていない」との主張は『短絡』している。
- ③「決算委員会、予算委員会の**その場で発言すると**・・・一時(いつか)のパフォーマンスと言うことで画面に出ているから一生懸命やっているのは・・・」と言ったあとで、「決して否定しないですよ。一生懸命やっているといっているのはわかっているから。」と発言。「**何を言いたいのだ、この人は?**」「**相手を殴った**」あとで、『赤チンを塗ってチャラ』にしようと言うのか。**“要するに”議会で発言するな。画面に映るようなことをするな。**と言いたいのですね。**その議員だけ映るから。**(あなたも予算書、決算書をていねいに読んで勉強したら疑問に感じ質問や意見の一つや二つ言えますよ。)

2 番目の問題点 ……ある意味、この点はかなり重要。

私の質問に対する梅森議員の答弁を聞いて、(梅森議員が議員として2期目の1年目の時でしたが)「この人、議員になって、5年目なのに基本的なことを全く、知らないのだな」と思いました。

梅森議員は、議員としての「最低の知識」が、欠けているのと思ったのは、今回だけじゃありませんが、今回は、議会報告会における発言に絞って指摘します。梅森議員の発言には、「決算委員会」と「定例議会・臨時議会」の目的の区別がなされていません。

驚いた梅森発言の1点目。(番号は質問書につけた番号)

「決算については、私はその都度、その都度、予算計上されて認められて4月から積んで行くわけで」と発言しています。

※この発言中、「その都度、その都度、予算計上されて」「4月から積んで行く」との説明は、全く見当違いです。内容的には、補正予算に関して述べているものです。増額、減額、時に新規を含む『補正予算』関係のことを述べているに過ぎず“決算”の説明には当たりません。”3月に決定された『新年度の年間予算』の支出関連の審議を度外視した説明になっています。

「決算委員会」が審議の対象とするのは補正予算だけではありません。

決算委員会で審議されるのは、

(1) 定例議会や臨時議会で審議される「増額、減額を含む前年度の各補正予算」と「前年度の年間予算」の両方を含めた1年間の収支の適正さの審議が「決算委員会」の対象となります。

(2) 決算書から見えてくる事は、新人議員でも気がつくのは、

①不納欠損額 ②収入未済額 ③不用額に対する「なぜ」です。

それに④流用・充用の問題です。次々と「なぜ」が生じます。

税金が、どのように使われているのか、真面目に審議に向き合えば、決算書の数字の内容を検討してみると、疑問や質問や意見が一つも出てこないなどはあり得ないことです。

私的に言わせれば、決算委員会で、疑問や意見や確認が一つもない議員がいたとしたら、それは『議員とは何たるか』も知らないポン助か、数字を読み取る能力や文字を理解する基礎学力が問われるであろうということです。

安平地区での議会報告会での『梅森議員の発言』(令和5年12/4(月))
に対し、質問書を出したが、一切の「回答」なし。

3 番目の問題点

議員が発言をしようがしまいが、「議員活動を一生懸命やっている」と言えるか。
特に、決算委員会で1回も発言しない議員をそう評価して良いのか。

まず、梅森議員の発言にそって、いくつか指摘しておきたい。

1 点目。「**その場その場でやる活動というのが、議員の中で大変大事なこと**」と

梅森議員は主張しました。もっともな意見です。

先ずは、梅森議員が実行してみてもはどうでしょうか。

梅森議員が、決算委員会と定例議会、臨時議会などの**認識の誤り**による「自己正当化」と「自己宣伝」の説明は、具体的根拠のあるものではありません。

「**その場の活動**」とは？

因みに、「その場」が会議の場であれば、先ずは、「議員の発言、主張」を示されなければなりません。「**その場の活動が大事**」と言いながら、梅森議員は、①「なぜ、決算委員会のその場、その場で、発言をし課題解決を主張しなかったのですか？

因みに、1 期目の4年間の梅森議員は、「決算委員会4年間の発言ゼロ」でした。田村議員も同様ゼロでした。梅森議員が言う「**その場その場でやる活動**」が、**議員の中で大変大事なこと**と述べるのであれば、先ずは、「その場」「その場」で「やる活動」の重要性を具体的に「模範」を見せて下さい。現時点では、**大学卒業の肩書きを持つ梅森議員と田村議員とは、同じ質と同じレベルの議員という印象ですが実態はどうなのでしょう？**いずれ、梅森議員も「議事進行」「異議なし」と叫ぶようになるのでしょうか。

2 点目。因みに、「**決算委員会、予算委員会のその場で発言すると、非常に一生懸命頑張っているんだなど伝わる**」などと発言者をパフォーマンスと揶揄しているが、**決算委員会や予算委員会の案件で発言しようとするれば、「その場」の決算委員会や予算委員会で発言するのは当然ではありませんか？**

それを、パフォーマンスの為だ、と主張するのは、なぜですか？

梅森議員が言う「発言しなくとも議員活動を一生懸命やっている」との強弁を「**議会基本条例**」に示された「**議員の責務**」といかには、調和させるのですかか。

「**議会が言論の府であることを常に認識するとともに、合議制を尊重し議員の相互の自由闊達な討論を行うものとする。**」(第4条1)

私が安平地区の議会報告会で「議員1人1人に、決算委員会をどのように認識しているか」と問いましたので、「**決算委員会**」で扱う**決算審議**の内容を確認しておきます。

1年間の**一般会計、その他事業会計**(国民健康保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計、介護保険事業特別会計、公共下水道事業特別会計)の**年度途中の増額、減額を含めた補正予算の1年間の収入と支出が適切であったかどうか、過不足の予算の是非をも審議し、次年度の予算作成に生かすものです。**このような重要な会議で、4年間で1回も**発言出来なかった**というのは、「**本当は、町政に無関心だった。**」とか、「**数字がとっても苦手でわからなかった**」とか、**その為だと思っている次第です。**